

## 第10回 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構分科会 議事要旨

1. 日時：平成30年7月5日（木） 9：30－15：20
2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室
3. 出席者
  - (1) 委員  
青木分科会長、田辺分科会長代理、関委員、白坂委員
  - (2) 事務局（内閣府宇宙開発戦略推進事務局）  
高田事務局長、行松審議官、高倉参事官
  - (3) 説明者等（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）  
川端理事、山浦理事、山本理事、浜崎理事、常田理事、今井理事、布野執行役、深井執行役
4. 議事要旨
  - (1) 分科会長及び分科会長代理の選出について  
委員の互選により青木委員が分科会長に選出された。また、田辺委員が分科会長代理に青木分科会長より指名された。
  - (2) 宇宙航空研究開発機構の平成29年度及び第3期中期目標期業務実績評価等について  
事務局から、資料に基づき説明が行われた
  - (3) 宇宙航空研究開発機構からのヒアリング  
資料に基づき、評価項目ごとにJAXAからヒアリングを行った。当該説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。（以下、○意見等、●JAXAの回答）
    - 受託研究を引き受ける時に、どういう視点で引き受けているのかが判ると、強化という側面に関して、受け身ではない全体として広がりのあるものになつて行くことが説明できると考える。
    - 我々がやっている研究に対して相乗効果があるということを先ずは考えている。もう一つは、その成果を活かすことで、相手方にどれくらいの価値が出るのかも考えている。メインは我々の研究にとってもある程度フィードバックが得られる形のものということを重要な項目と捉えて進めている。
    - 年度計画に対してアウトプットが記載されており、我々委員はその計画に対しての差分をプラスなのか、マイナスなのか等々を評価して行く。しかしながら資料は、プラスのものののみが報告されていると見受けられる。
    - 年度計画一対応で一つずつ書いていくと、非常に冗長になる。その意味で、

計画通り実施できたものはある程度ここから外し、計画以上のものを中心に先ずは書いている。

- 比較のところで、特許件数など、過去との比較だが、これは来年度からで結構であるが、他の機関・海外との比較にすべき。JAXAはこれから世界に打って出る組織と認識しており、そういう比較が可能であれば、是非次年度からお願いしたい。
- 教育をするとなると、この人材が将来働くところまでを考える必要がある。つまり民間でどんどん新しいビジネスを作っていく必要があり、そのようなことを考えられる人たちを養成しているのか。例えば、イーロン・マスクのような人間を育てる意識はあるか。
- 特にイノベーションハブの話を申し上げましたが、異分野の投資家の方も入って頂き、ビジネスの出口を想定した研究開発を、どのように異業種も取り込んでやるかということも含めた観点で実行している。
- リモートセンシングは利用も進んで行っているが、これからもっと高頻度観測になって、ビッグデータ処理がどうしても必要になると思う。JAXAは、そのビッグデータの処理、AIを使ったディープラーニングなど能力というのはどうか。
- まだまだあると考える。例えば、船舶の検出に当たってそのようなデータを使おうということで、今、取り組んでいるところ。

以 上